

# ハザードマップの使い方

## ハザードマップの使い方

ハザードマップは、水害に備えて避難行動や情報の入手先等を示したものです。いざというときのために、家族や近所で平常時より話し合い、備えておきましょう。

**1** 自宅や勤務先、学校などの周辺の危険箇所をハザードマップで確認しましょう。

**2** あらかじめ、避難場所や避難経路、家族との連絡手段などを話し合います。

**3** いざというときの安全な避難行動、日頃からの備えを確認しましょう。

## 災害用伝言ダイヤル

●災害用伝言ダイヤル「171」(NTT 東日本) 安否確認や避難している場所を音声で伝言することができます。



## 災害について知ろう (洪水・内水)

**内水氾濫と外水氾濫(洪水)の違い**

**内水による浸水(内水氾濫)**  
雨の量が下水道や道路側溝などの排水施設の能力を超えたり、河川の水位が高くなったとき、雨水を排水できずに、浸水することがあります。

**洪水(外水氾濫)**  
大雨によって河川の水位が高くなると堤防を越えて水があふれたり、堤防の土砂が流出して決壊することがあります。

**内水氾濫の発生**  
非常に激しい雨が降ると、雨水が下水道や道路側溝などで排水できずに溜まります。

**洪水(外水氾濫)の発生**  
さらに雨が降り続けると、河川の水位が上昇し、堤防が決壊すると、大きな被害が発生します。

## 大雨時にとるべき行動 (避難の方針)

### 立退き避難(水平避難)と屋内安全確保(垂直避難)

大雨時には、必ずしも立退き避難(水平避難)する必要はありません。想定されている浸水深が3m未満であれば、2階以上は安全です。自宅内や近隣の高い建物でも安全が確保されるのであれば**屋内安全確保(垂直避難)**できます。ただし土砂災害の危険性がある場合は、屋内でもガケ等と反対側に移動するようにしましょう。命を守る行動が避難行動です。

**危険な避難**  
土砂災害の危険がある場合ガケと反対側の2階以上へ避難します。何よりも命を守る行動を!!

**危険な場所からはなれる(立退き避難)**

**高所への避難(屋内安全確保)**  
自宅内や近隣建物に安全な場所がある場合は、無理に立退き避難せずに自宅等にて避難することも検討してください。

**早期立退き避難が必要な区域**

これらの区域では立退き避難をしてください	浸水深3.0m以上になる区域 <small>※建物高が1階建ての場合は、浸水深0.5m以上になる区域</small>	洪水時に家屋が倒壊するおそれのある氾濫想定区域 <small>(家屋倒壊等氾濫想定区域内)</small>	浸水継続時間が3日以上の区域
----------------------	---	--	----------------

## 避難方針

ハザードマップで自宅等の浸水深を確認し、場所に応じた避難をしてください。

**ハザードマップで自宅等を確認**

自宅等は、浸水想定区域や土砂災害警戒区域内ですか?

いいえ → **自宅等にて避難(屋内安全確保)。**  
※土砂災害警戒区域、浸水想定区域に近い場合や危険を感じる場合は、必要に応じて避難しましょう。

はい → **立退き避難の必要性を確認**

自宅等は、想定される浸水深より低い階ですか? 土砂災害警戒区域や家屋倒壊等氾濫想定区域内ですか?

いいえ → **自宅等にて避難(屋内安全確保)。**  
ただし、水が引くまで過ごすための飲料水・食料・携帯トイレなどの備えが必要です。  
※目安は3日以上(推奨1週間)

はい → **自宅等は危険です。避難が必要な場合は、指定緊急避難場所等へ避難しましょう。**  
※親戚や知人宅への避難も検討しましょう。

# 災害について知ろう (土砂災害)

## 土砂災害について -土砂災害の種類と前兆現象-

大雨や台風、地震によって、地盤がゆるみ、ガケ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害が引き起こされる可能性があります。下記の前兆現象を確認したらすみやかに避難してください。

かけ崩れ	土石流	地すべり
<p>地中にしみこんだ水分が、急な斜面が突如崩れる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。</p>	<p>大雨や集中豪雨などによって、山や川の石と土が一体となって一気に下流へ押し流される現象です。崩壊土砂により河川をせき止めて一気に流れる場合があります。</p>	<p>大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、地面が広い範囲にわたって動きだすものをいいます。</p>

土砂災害の前兆(前兆現象) ※下記は一般的な前兆です。すべての場所において必ず起きるというものではありません。

五感	移動主体	かけ崩れ	土石流	地すべり
視	山・斜面・ガケ	●ガケに割れ目が見える。 ●ガケから小石やハコガラと落ちる。 ●斜面がふくらみだす。	●渓流付近の斜面が崩れます。 ●落石が生じます。	●地面にひび割れができる。 ●地面の一部が落ち込んだり盛り上がりだす。
水	水	●表面流が生じる。 ●ガケから水が噴き出す。 ●湧水が濁ります。	●川の水量が異常に増える。 ●雨が降り続けているのに水位が下がる。 ●土砂の流出。	●沢や井戸の水が増える。 ●斜面から水が噴き出す。 ●池や沼の水かさが増える。
樹木	樹木	●樹木が傾く。	●濁水に流木が混じります。	●樹木が傾く。
その他	その他		●渓流内の火花。	●家や擁壁に亀裂が入る。 ●擁壁や電柱が傾く。
聴覚(音)		●樹木の根が切れる音がする。 ●樹木の揺れる音がする。 ●地鳴りがする。	●地鳴りがする。 ●山鳴りがする。 ●軽石がぶつかり合う音がする。 ●地鳴りがする。	●樹木の根が切れる音がする。
嗅覚(におい)			●腐った土のにおいがする。	

### 土砂災害警戒区域とは?

土砂災害警戒区域	土砂災害特別警戒区域
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等に危害が生じるおそれがある区域	土砂災害警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合に建築物に損壊が生じ、住民等に著しい危害が生じるおそれがある区域
<ul style="list-style-type: none"> <li>●特定開発行為に対する許可制</li> <li>●建築物の移転等の動告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●建築物の構造規制</li> <li>●特定開発行為に対する許可制</li> <li>●建築物の移転等の動告</li> </ul>
土砂災害から生命を守るため、すみやかな避難ができるように、災害情報や避難情報を適切に伝達できる体制を整備します。	想定される衝撃等に要配慮者利用施設の開発行為には、許可が必要で、著しい損壊が生じるおそれがある建築物の所有者に対し、移転の動告をすることができます。

※土砂災害警戒区域等は、住宅などがあがる地区を指定します。このため、住宅がない地域では、危険な区域とされていないところでも、土砂災害の可能性がります。道路の通行や避難の際には、「ガケの下」「谷の下」などに注意しましょう。

## 大雨時にとるべき行動 (情報の入手先)

### 情報の入手先

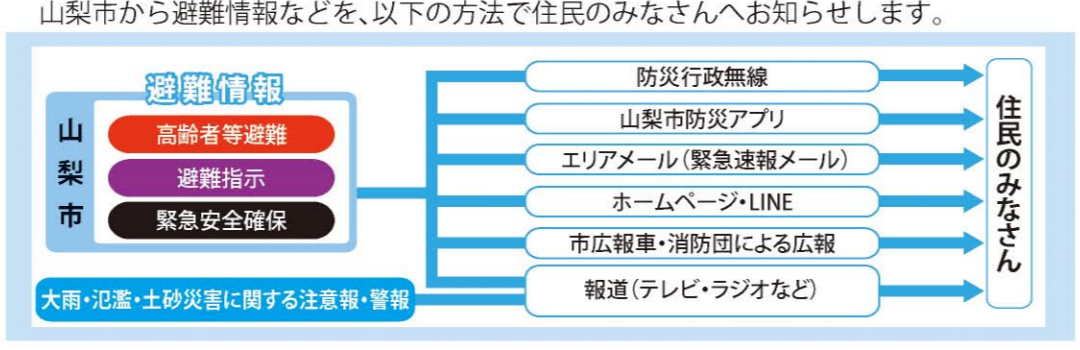
防災情報は、様々な方法で入手できます。自ら積極的に情報を入手しましょう。

- 山梨市防災アプリ  
https://www.city.yamanashi.yamanashi.jp/soshiki/7/10285.html  
台風接近時など、大雨や強風で防災行政無線の屋外放送が聞えにくい場合でも、スマートフォンに防災情報がプッシュ通知で音声・文字が直接配信されますので、聞き逃がしません。また、放送内容を文字や音声で繰り返し確認することもできます。
- 防災行政無線  
防災行政無線の放送内容をもう一度聞きたい場合、下記の番号から確認することができます。
- 080-0800-6811
- テレビ・ラジオ放送  
テレビ・ラジオを活用して気象情報や避難情報を入手しましょう。
- 山梨市防犯・防災メール  
yamanashi\_city@s-alertmail.jp  
空メールを送信してください。返信されるメールより登録できます。
- エリアメール(緊急速報メール)  
携帯電話のエリアメール(緊急速報メール)の機能を使うことで、避難の情報を入手できます。設定方法については、携帯電話各社のホームページをご確認ください。

**インターネット**

- 山梨市ホームページ  
山梨市からのお知らせを確認できます。
- 山梨市公式LINE  
アカウント名: @yamanashicity  
山梨市の公式LINEアカウントです。
- 国土交通省 川の防災情報  
水位観測所の情報や河川カメラの画像を確認できます。
- 気象庁キキクル  
大雨による危険度を地図で確認できます。
- やまなし防災ポータル  
山梨県内の気象、緊急情報を確認できます。
- 山梨県土砂災害警戒情報  
山梨県内の土砂災害警戒情報や警戒レベルを、地区別で確認できます。

### 情報伝達の流れ



# 大雨時にとるべき行動 (避難のタイミング)

## タイムライン

災害が発生するおそれが高まった時に、気象庁や山梨市から5段階の警戒レベルが発表されます。警戒レベルに応じて、安全な避難行動をしてください。

**危険度の高まりに応じて段階的に発表される気象情報・避難情報ととるべき行動**

警戒レベル	気象状況	気象庁等の気象情報	山梨市からの避難情報	市民のみみなさんがとるべき行動
1	大雨の 数日～ 約1日前	早期注意情報 (警報級の可能性)		災害への心構えを高める
2	大雨の 半日～ 数時間前	大雨注意情報 氾濫注意情報 土砂災害注意情報		ハザードマップ等で 避難行動を確認
3	大雨の 数時間 ～2時間 程度前	大雨警報 氾濫警報 土砂災害警報	高齢者等避難	危険な場所から 高齢者等は避難 高齢者等以外の人も必要に応じ、 普段の行動を見合わせ始めたり、 避難の準備をしたり、自主的に 避難する。
4		大雨危険警報 氾濫危険警報 土砂災害危険警報	避難指示	危険な場所から 全員避難 台風などにより暴風が予想される 場合は、暴風が吹き始める前に 避難を完了しておく。
5	災害が 発生または 切迫	大雨特別警報 氾濫特別警報 土砂災害特別警報	緊急安全確保	命の危険直ちに安全確保! すでに安全避難ができず、命が 危険な状況。ただちに身の安全を確 保する。

### <気象防災速報>

2026年(令和8年)5月下旬から気象庁より、線状降水帯の発生や、記録的な短時間大雨など極端な現象が発生または発生しつつある場合に連発的に伝える情報として、気象防災速報が発表されます。  
※線状降水帯とは、次々発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなし、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過・停滞することで、同じ場所で非常に強い雨が降り続く現象です。

## 災害に備える (自宅や地域でできる対策)

### 自宅まわりの風水害対策

風水害による家屋の被害を抑えるために、日頃から家の周りの点検や整備を行います。

- 屋根  
瓦のひび・ずれなどはないか。トタンのめくれ・はがれはないか。
- 窓ガラス  
ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。
- バランダー  
鉢植えや物干しざおなど飛散の危険性が高いものは室内へすくりに移動できるようにしているか。
- 外壁  
外壁に亀裂はないか。板壁の場合、腐りや浮きはないか。
- ブロック塀  
ひび割れや破損箇所はないか。
- 雨水浸透ます  
雨水浸透ますの中が土砂などで詰まっていないか。  
※機能維持のため定期的に清掃を行います。
- 側溝  
目詰まりしていないか。雨水がすみやかに排出されるか。  
※定期的に点検・清掃を行います。
- 周囲  
家のまわりに、流されて側溝を詰まらせてしまうものはないか。

### 防災訓練に参加しましょう

市や区では、災害に備え、避難訓練や避難所運営訓練、炊き出し訓練、資機材の運用訓練などを実施しています。訓練に参加することにより、実際の行動手順が身につく、いざというときに自分や家族、地域を守ることができ、積極的に参加し、災害に備えましょう。

# 大雨時にとるべき行動 (避難時の心得)

## 避難の心得

避難時にあわてないため、日頃から避難の心得を覚えておき、必要なものを準備しておきましょう。また、みんなで避難の手順について話し合っておきましょう。災害時には、正確な情報を入手して、すばやく避難しましょう。

- 状況により、すばやく避難  
避難情報などが発令されていなくても、状況などを判断し、自主的に避難しましょう。
- 家族には連絡メモを残そう  
外出中の家族には「どこへ避難する」といったようなメモを残しておきましょう。
- わが家の防災メモを持とう  
住所・氏名・連絡先などを記載した防災メモを用意し、身につけて避難しましょう。
- 集団で助け合おう  
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。
- 車での避難は控えて  
車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は控えましょう。
- 安全なルートで避難  
川べり、がけ沿いなどは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。
- 非常持ち出し品は最小限に  
非常持ち出し品はリュックサックにまとめて、両手が自由に使えるようにしましょう。
- 指定緊急避難場所では指示に従いましょう  
指定緊急避難場所に着いたら、係の人の指示に従い住所・氏名を報告しましょう。

### 大雨時に危険な場所

指定緊急避難場所までの路上には、いろいろな危険が潜んでいます。日頃から身の回りの様子を観察し、大雨のときに注意すべき場所を確認し、ハザードマップに書き込んでおきましょう。

- 地下道(アンダーパス)  
地下道(アンダーパス)は、大雨時には周辺から水が流れ込み危険です。
- 土砂災害警戒区域等(かけ崩れの危険がある区域)  
「ガケ(急傾斜地)」は、大雨が降ると崩れるおそれがあります。大雨時には近づかないようにしましょう。また、「ガケ」の近くに住宅がある場合には、早めの避難を心がけましょう。
- 水路の周辺  
水路には、ガードレール等の柵がないことがあります。浸水時には、水路の場所が分からなくなり、誤って落下し、流される危険があります。
- 浸水実績箇所  
周辺よりも低くなっていることが多く、水が溜まりやすいので、注意が必要です。

### 大雨時の地下は注意が必要

洪水や豪雨時の地下施設、地下室などは危険です。地上の浸水状況とは大きく異なり、冠水や停電の危険性が高いため、特に早めの避難が必要です。

- 地上が浸水すると一気に水が流れこみます
- 浸水すると電気が消えることがあります
- 地下駐車場、半地下住宅では、排水ポンプを設置し、浸水に備えましょう
- 水圧でドアが閉かかると危険です

## 災害に備える (非常持ち出し品・備蓄品)

### 非常持ち出し品(例) ※準備したものにチェックを付けましょう。

- 飲料水
- 食料(アルファ化米・缶詰)
- 眼鏡
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 車手・使い捨て手袋
- 生理用品
- マスク・体温計
- 救急用品(ばんそうこう・包帯・消毒液・両手常備薬など)
- タオル
- 筆記用具
- ティッシュペーパー
- トイレペーパー
- ウェットティッシュ
- 貴重品(現金・通帳・マイナンバーカードなど)
- 乾電池
- ナイフ・缶切り
- ライター
- 携帯トイレ

### 備蓄品(例)

災害が発生すると物流が機能しなくなり、災害支援物資が届かなかったり、スーパーやコンビニで食品が手に入らなくなったりすることがあります。そのため、最低でも3日分、可能であれば1週間分程度の食品等を家庭で備蓄しておくとういでしょう。

<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 水(1人1日3L程度)</li> <li>□ カセットコンロ、ボンベ(1人1日1本弱程度)</li> <li>□ カップ麺類</li> <li>□ パックご飯</li> <li>□ 乾麺(そうめん、パスタ等)</li> <li>□ 肉・豆等の缶詰</li> <li>□ 牛丼・カレー・パスタソース等のレトルト食品</li> <li>□ インスタント味噌汁や即席スープ</li> <li>□ 梅干し、漬物、日持ちする野菜類</li> <li>□ 野菜の缶詰</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 野菜ジュース</li> <li>□ 日持ちする果物類</li> <li>□ 果物の缶詰</li> <li>□ 果物のジュース</li> <li>□ ドライフルーツ</li> <li>□ あめ・せんべい・チョコレート等の菓子・嗜好品</li> </ul>
---	---

※自分に必要な物も記入しておきましょう。

### ローリングストック

